



門を開いて待っているだけでは、
まだまだ不十分。
三鷹ネットワーク大学に
参加したことは僕らにとって、
グッドタイミングでした。
海部宣男

新春対談

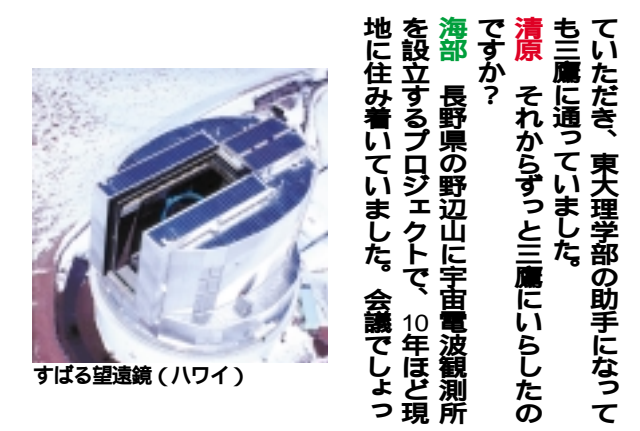


三鷹市には日本の天文学研究の中心地、国立天文台があります。
2000年、台長に就任した海部宣男さんは、
子どもの時から三鷹市と縁が深い。
野辺山の電波望遠鏡やハワイのすばる望遠鏡を手がけた
天文学の専門家は、科学と社会の関係を深めるために
その門を市民に開きつづけています。
対談の話題は、三鷹ネットワーク大学や学校教育との連携、
「科学公園」構想などに広がりました。



私たちにとって
大切な存在として宇宙がある。
国立天文台があることで、
三鷹市民は宇宙や科学を
身近に感じられると思います。
清原慶子

天文学の中心地、三鷹に通い続けてきた40年間
清原 海部台長さんは、三鷹に縁が深いとお聞きしたのですが、
海部 そうなんです。少年時代に三鷹市立第四小学校に在籍していた時期がありまして、三鷹のころは天文少年でしたから、三鷹の東京天文台(当時)にも見学に来ました。
清原 天文少年が研究者として三鷹に戻って来られたわけですね。
海部 ええ、東京大学の大学院に進んだとき、研究したかった宇宙電波の研究グループは、三鷹にしかありませんでした。天文台の先生方と一緒に研究をさせて



ていただき、東大理学部の手先になっても三鷹に通っていました。
清原 それかすって三鷹にいらしたのですか？
海部 長野県の野辺山に宇宙電波観測所を設立するプロジェクトで、10年ほど現地に住み着いていました。会議でこちらを3回訪ねて来ました。
清原 40年ですか？
海部 ハワイのすばる望遠鏡や先ほどの野辺山の観測所は、日本は優れた観測施設を持ってはいますが、それらは国立天文台が建設・運用しています。三鷹はその本部として、多くの研究者が研究や開発を行って、日本の天文学のみならず、世界の天文学の中心地の一つになっています。

最先端の研究も市民の理解から国立天文台を常時公開
清原 海部さんが台長になられて、天文台の常時公開を始めていただきました。これは、三鷹市民はもちろんのこと、一般の人々にとっても喜ばしいことだと思います。
海部 僕自身が天文少年でしたし、科学が市民にとって身近なものになってほしいという思いがありました。でも、天文台の公開という点では野辺山の宇宙電波観測所の設立に関わったことが大きかったと思います。
清原 それはどういった取り組みだったのですか？
海部 このプロジェクトは予算が10億円以上だったんです。
清原 大変な金額ですね。
海部 基礎科学プロジェクトでは当時日本最大です。さすがにそれだけの予算を使う意味を考えました。そのときにひらめいたのは、日本の人口割ると一人あたり10円を出してもらっている計算になるんだということ。国民一人ひとりが10円出してよかったと思える結果を出さなければならぬ。だから、市民に「ええ、ええ」と思ってもらえるように、公開の場を設けました。

宇宙を身近にしてくれる新しい試みと交流
清原 昨年10月、14の教育・研究機関の協力で、三鷹ネットワーク大学をオープンさせたという話を聞きました。検討の当初は「参加した方がいいか不安はありました。が、各機関の代表者から、地域に開かれた教育・研究機関であらうと、そのために協力したい」という強いお言葉をいただきました。とても励まれました。国立天文台も積極的に参加してくださいました。
海部 一般の方に天文学研究の成果を分かりやすく伝えるには大変です。3年前は前からスタートした4次元シタル(宇宙シタル)の開催も、その一環です。二つは、科学的リテラシーを養成するための体系的な取組、時間の流れを自由に体験しながら見せていくことも



天体観望会



のです。星の誕生から宇宙の構造・運動進化を体験していただく試みです。
清原 成果を一般の人にも分かりやすくして感動とも見せていただく、科学は一部は専門家のためだけにあつたものではないことを実感できます。開かれた国立天文台を象徴する企画ですね。それ

とネットワーク大学での「マストロニ」(Mastroni)も新しい試みです。
海部 「マストロニ」週末の夜に、マストロニを手に専門家の解説を聞いた星の話を聞くという企画です。講師は通った、気軽に話しかけられるのがよいですね。
清原 日中にお仕事をされている市民の皆さんが参加できる時間帯なのがいいですね。
海部 先生、知りたい気持ちにはあっても、天文台には生活には馴染みませんが、大変おもしろい学問です。自分たちが住んでいる世界の仕組み、宇宙の観測から知ることがありますからね。
清原 私たちは、太陽を自分の世界の家として、夜空の星に想いを注ぎたい。目を回らして見たいですね。日々の暮らしで

の多くは、太陽を自分の世界によって支えられていきます。私たちに大切な存在として宇宙がある。国立天文台があることで、三鷹市民が宇宙や科学を身近に感じられると思います。
清原 ネットワーク大学の「科学公園」構想は、市民と研究者が交流できる場を創出することです。市民と研究者が交流できる場を創出することです。市民と研究者が交流できる場を創出することです。
清原 ネットワーク大学の「科学公園」構想は、市民と研究者が交流できる場を創出することです。市民と研究者が交流できる場を創出することです。市民と研究者が交流できる場を創出することです。

これから市民のために暮らして科学をつなげる
清原 今、地球温暖化をはじめとする環境問題が世界で共通の課題になっています。環境に注目してよりよい社会を実現するために、身近な暮らしから取り組む必要があります。地球、そして宇宙とつながる大きな視野が必要なのではないでしょうか。
海部 その通りです。だから、中小学校の連携も必要ですが、科学を市民に身近なものにする必要があるんです。例えば地球温暖化ですが、そのメカニズムはまだよくわかっていません。ただ、天文台とも密接な関係があるのは確かです。
清原 先生、これに直結する地域や地球の環境問題とも宇宙の研究はつながっていることですね。
海部 そうです。「これからの市民にとって科学的な視点で自分の身の回りを理解すること」は、子どもたちの将来のために

大切なことですね。
清原 私たち一人ひとりの人生は宇宙の歴史から見たら一瞬かもしませんが、しかし、その瞬間に私たちが正しい知識を持って、今までの歴史を尊重しながら、次の未来をつないでいくための正しい選択ができるのではないかと思います。
海部 市民が科学に関する理解を深めていくことで、大企業や研究機関と協力を果たしていくことができるでしょう。そのために、ネットワーク大学の「科学公園」構想は、市民と研究者が交流できる場を創出することです。市民と研究者が交流できる場を創出することです。市民と研究者が交流できる場を創出することです。

学と社会のあるべき関係について実践されていられました。これからどんなことを実現されたいですか？
海部 まずは、小中学校と二橋に何かやりたいですね。
清原 子どもたちと一緒にですか？
海部 そうです。実は以前、私の母校でもある三鷹市立第四小学校にNHKの「課外授業・まっしぐら先生」という番組で訪れる機会がありました。同校は今の教育長が校長先生をしていた時からの取り組みで、子どもたちがさまざまなことについて学べる地域の方による課外スクールがたくさんあるというところでした。科学についてのスクールが一つもないんです。これはちょっと残念です。科学は難しいという意識がまだまだ強いからでしょうね。小中学校の教育に、大学や科学者、研究機関をもっと利用できるような仕組みをつくらないかと考えています。
清原 三鷹市のコミュニティスクールにぜひ協力ください。
海部 コミュニティスクール？

清原 先生、今年4月から三鷹市では小・中一貫教育の取り組みがスタートします。それに連動する「コミュニティスクール」構想です。学校を教職員と生徒だけでなく地域にも開かれたものにする取り組みです。地域の皆さん、学校の運営にどうも参加していただくという構想です。国立天文台にもぜひ協力をお願いしたいと思います。教育内容の深化が図れると思います。
清原 先生、今年4月から三鷹市では小・中一貫教育の取り組みがスタートします。それに連動する「コミュニティスクール」構想です。学校を教職員と生徒だけでなく地域にも開かれたものにする取り組みです。地域の皆さん、学校の運営にどうも参加していただくという構想です。国立天文台にもぜひ協力をお願いしたいと思います。教育内容の深化が図れると思います。

海部 市民が科学に関する理解を深めていくことで、大企業や研究機関と協力を果たしていくことができるでしょう。そのために、ネットワーク大学の「科学公園」構想は、市民と研究者が交流できる場を創出することです。市民と研究者が交流できる場を創出することです。市民と研究者が交流できる場を創出することです。
清原 ネットワーク大学の「科学公園」構想は、市民と研究者が交流できる場を創出することです。市民と研究者が交流できる場を創出することです。市民と研究者が交流できる場を創出することです。



海部宣男さん
Kaifu, Norio
1943年生まれ。天文学者、理学博士。国立天文台台長。東京大学、同大学院で学んだ後、東京大学東京天文台(現国立天文台)野辺山宇宙電波観測所の45m電波望遠鏡などの建設に従事し、ハワイのすばる望遠鏡を建設、初代ハワイ観測所所長となる。2000年に国立天文台の3代目台長に就任。南米・チリに建設中の新しい国際電波望遠鏡ALMAプロジェクトにも日本を代表して参加。



清原慶子市長
Kiyohara, Keiko
1951年生まれ。慶應義塾大学、同大学院で学んだ後、ルーテル学院大学文学部助教授・教授、東京工科大学メディア学部教授・学部長を経て、2003年4月に第6代三鷹市長に就任。政府IT戦略本部有識者本部長、総務省情報通信審議会・国土交通省国土審議会・内閣府国民生活審議会・同障害者施策推進協議会等の委員も務め、市民と自治体の立場から意見を表明している。